

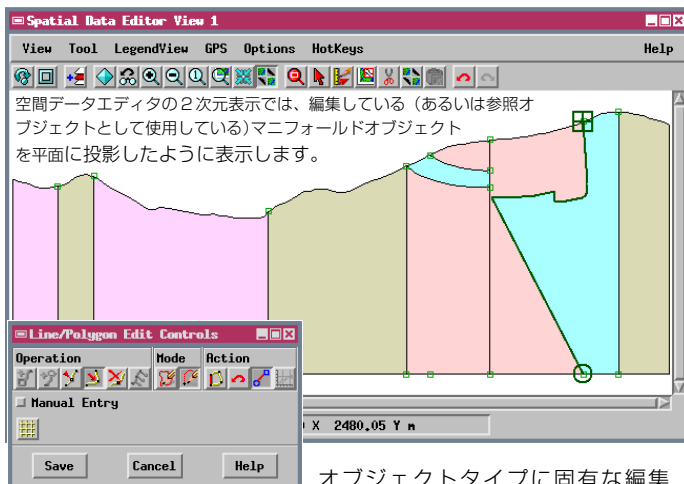
マニフォールドオブジェクトの編集

マニフォールドオブジェクトは3次元コントロールポイントを持ったラスタ、ベクタ、CADオブジェクトであり、それらのコントロールポイントが3次元空間でのオブジェクトの形状と位置を定義します。どんなマニフォールドオブジェクトもTNTmipsの空間データエディタで、編集したり参照オブジェクトとして使用したりすることができます。例えば、ジオツールボックスにあるGenerate Cross-Section (断面図の生成) ツールを使って、地質断面図のひな型となるマニフォールドベクタオブジェクトを作成することができ(カラー図版『断面マニフォールドオブジェクトの作成』を参照)、その後空間データエディタを使って、ご自分の地質解釈に合うようにコンピュータが自動生成した地下の地質境界線を編集することができます。

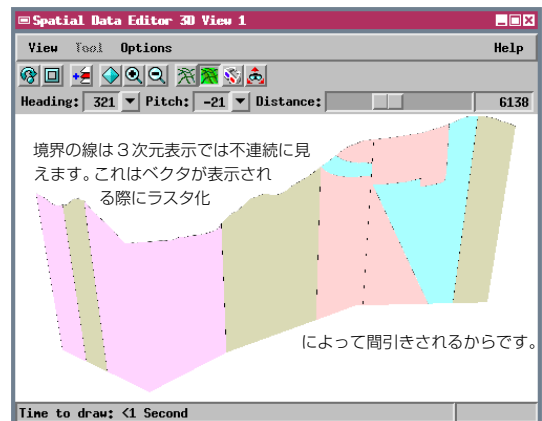
マニフォールドオブジェクトは完全な3次元形状をもっているため、見るためには3次元表示ウィンドウでの表示をしますが、通常の2次元表示ウィンドウでの表示は

できません。ただし修正箇所の変更を容易にできるように、空間データエディタの2次元表示ウィンドウではマニフォールドオブジェクトを平らにした展開図として表示します。オブジェクトタイプに固有なすべての編集ツールが利用可能です。マニフォールドオブジェクトを使って作業する際、編集の効果を鳥瞰図表示で確認できるように3次元表示ウィンドウも自動的に開きます。下の図は、最終的な解釈図を作るために、ひな型となった断面(ベクタマニフォールドオブジェクト)に対して行う編集のいくつかの段階を示しています。

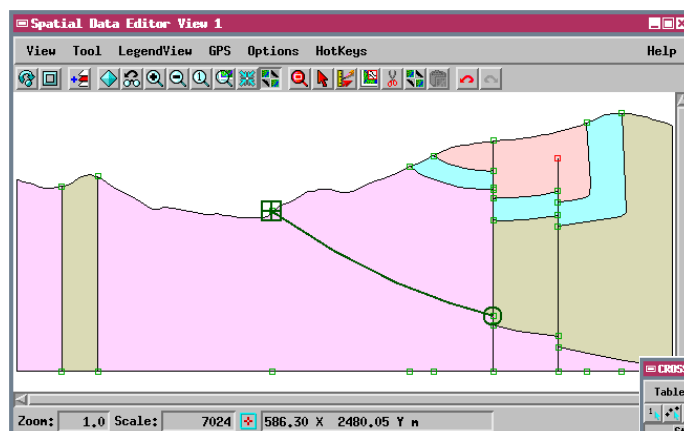
空間データエディタにおいてマニフォールドオブジェクトを参照用を選択すると、そのオブジェクトの上で編集可能な新規オブジェクトを作成することができ、参照しているマニフォールドオブジェクトからマニフォールド用のジオリファレンスを自動的に取得します。たとえば、ラスタのマニフォールドオブジェクトを参照用を選択し、注釈や追加的な地質的特徴を重ねるために(マニフォールドのジオリファレンスを持った)新規のベクタオブジェクトを作成することができます。



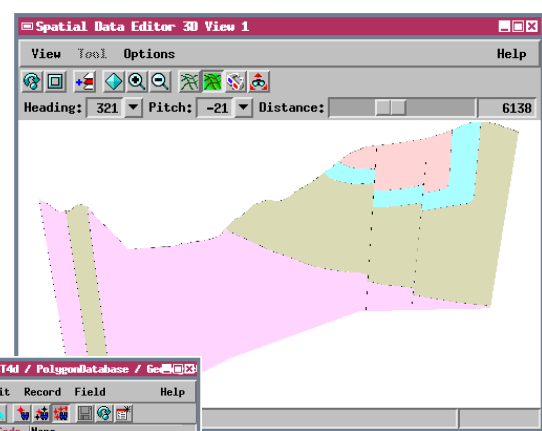
オブジェクトタイプに固有な編集ツールすべてが利用可能です。ここではLine/Polygon Edit (線/ポリゴン編集) ツールを使って断面図中の線の構成を変えています。



空間データエディタの3次元表示ウィンドウで、編集作業の進捗をモニターすることができます。



ポリゴン境界を削除したり追加するときは、ポリゴンに対する属性のアタッチを確認し、正しいスタイルの割当てを維持するための必要な変更を行います。ここでは、大きなポリゴンを新しい線(緑線)で分割し、2つの新しいポリゴンに対してデータベースレコードが正しくアタッチされたかチェックが必要です。



Style Code	Name
Cc	Canpito Fn
Cp1	Lower Member Poleta Fn
Cpl	Lower Member Poleta Fn
Cp2	Lower Member Poleta Fn
Cpu	Upper Member Poleta Fn
Cpu	Upper Member Poleta Fn
Kqn	Papoose Fiat Pluton

左に示されている編集中のベクタマニフォールドの3次元鳥瞰図。ポリゴンに対して正しくスタイルを割当てるため、データベースレコードのアタッチを整理した後。